

山田小学校だより ((Metamorphose))



文責 校長 谷川晴峰

次第に認識されつつある2025年問題

「これから10年間で、日本の人口は700万人減り、15歳～64歳の生産年齢人口が7,000万人まで落ち込む一方で、65歳以上の人口は3,500万人を突破し、2025年の日本は、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、人類が経験したことのない『超・超高齢社会』を迎える。」との予想があります。(政策研究大学院大学名誉教授の松谷明彦氏による)

人口減は経済成長の足かせになることを意味し、超・高齢化社会加速は社会保障制度の疲弊を象徴しています。疲弊という表現よりも、「破綻」と換言したほうが良いような気がします。人口減に関しては、東京オリンピックが終わったあとでも現在と同水準の人口を維持できるのは、東京・神奈川・千葉・埼玉の首都圏と、愛知・沖縄・滋賀のみで、青森・岩手・秋田・山形・福島の東北各県や、中四国の大半の県は、軒並み1割程度、人口が減るだろうと予想されています。

しかしながら、もっと深刻なのは「少子化問題」です。いわゆる先進国の全てが同じような問題を抱えています。例えば、アメリカのように、人口減少を移民政策でくい止めている国もあれば、フランスのように、出生率改善と向き合っている国もありますが、**残念ながら我が国は少子化対策に関しては全くの無策と断言するほど、十分な対策がとられていないのです。**少子化＝生産人口の減少であり、それは国の税収減として表れ、国の経済発展にも悪影響を及ぼします。直言すれば、**2025年問題は「人手不足」と「財政危機」**なのです。

日頃から内省していますが、今回の学校便りも(一般的な他の学校に比べて)**変だと思えます。**しかし、よく考えると、現6年生が成人を迎える直前の話です。その時、私は生きていくかどうかわかりませんが、退職し、変化のない日常を過ごしていると思えます。今、目の前にいる子供たちは、どのような現実と向き合っているのか・・・。**真剣に考えれば考えるほど、「暗黒」という言葉が浮かびます。**

若者が減り高齢者が増えると、労働環境も変わります。労働力人口が高齢化することにより、労働の質が変わります。厚生労働省によると、2000～2010年の10年間で、事務職や工業系技術者は14%、農家や漁師は30%、また土木業者や建設技術者は40%も減っていますが、介護関係職員は倍以上に増加し、葬儀関係者も1.5倍に増えているそうです。この傾向は、更に加速すると予想されています。

生産年齢人口の減少と労働力人口高齢化を補うのがAI、いわゆるロボット技術だと考えられます。もしくは、移民の受け入れ＝「安い労働力の輸入」という事態に直面するかもしれません。賃金の高い労働者が淘汰されることが予想できます。

サバイバルゲーム(生き残りを懸けた闘い)は、すでに始まっています。山田小学校の全児童が直面しているのです。**これから生き残れる労働者にならないかぎり、路頭に迷うこととなります。**脅しではありません。**逃げられない命題を提示しているだけです。**

海外からの労働者が増えても大丈夫な働き方、ロボットには絶対にできそうもない職業(働き方)は何か?労働環境のグローバル化、多様化を否定的に考えず、より柔軟に、時代に求められる人材に自分を変えるという意識を持った人間だけが生き残れる時代の到来です。まさに、**「原理」「発展」「応用」が鍵です!**